

年次報告

受講生：11名 下記の区分及び術中麻酔管理領域を修了しました。

期間：2021年4月1日～2022年3月17日

術中麻酔管理領域パッケージ 3名

特定行為区分	特定行為
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	人工呼吸器からの離脱
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

特定行為区分	特定行為	修了人数
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	1
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	3
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	3
	人工呼吸器からの離脱	1
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	5
	脱水症状に対する輸液による補正	3
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	2
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	2
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	2
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	
	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	2
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	4
	抗精神病薬の臨時的投与	4
	抗不安薬の臨時的投与	4

共通科目：2021年4月2日～10月8日学研サポートシステムeラーニングを使用して
講義・演習・実習の合計252時間を終了し、各科目試験も合格しました。

※写真は、共通科目の講義やグループワークの風景です。

共通科目の講義は、仕事の合間に一人でコツコツ行うeラーニング学修ですが、月に
2回程度行われる集合学習で、講義やグループワークを行います。仲間とディスカッ
ションすることで、学びが深まる楽しい時間です



※写真は、フィジカルアセスメント実習風景です。

研修生がお互いに診察技法をロールプレイします。また、特定行為研修を修了した看護
師がファシリテーターとなり、シミュレーターを使って、実践しながらに技術を磨
きます。最終は、症例を設定した診察技術の発表をして、指導医から指導を受けるこ
とによって、学習したことの確認ができます。



※写真は、特定行為実践（チーム医療）演習で、多職種カンファレンスをロールプレイしました。事例に係る各職種になり切って、患者さんに対してどのようにケアするのがベストなのかを話し合いました。



特定行為実践講演会

今年度は、特定行為実践の実習として、すでに特定看護師としてご活躍の3名の方に、「特定看護師としての活動と大切にしていること」についてご講演いただき、研修生とディスカッションしました。このことを通して、研修生は、特定行為を修了した看護師としてどのように活動していくのかを考える有意義な時間となり、さらに研修のモチベーションアップにつながったようです。

区分別科目：2021年10月9日から各区分別科目の講義・演習を開始しました。

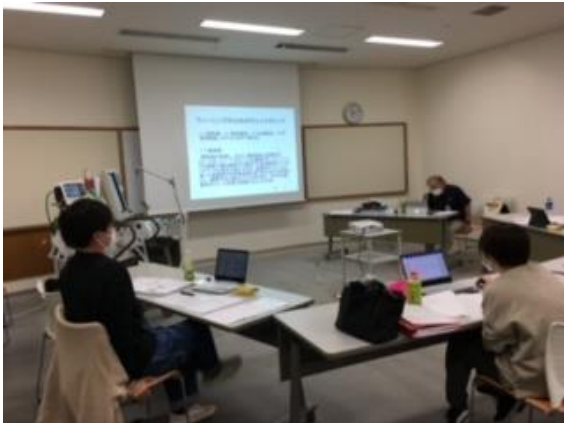
術中麻酔管理領域パッケージについては、「気管チューブの位置の調整」「動脈血採血」「動脈ラインの確保」の手技についてOSCEを実施し、合格しました。

区分別科目の講義・演習が終了した研修生から順次、あらかじめ作成した手順書に沿って臨床実習に臨み、各行為5症例以上を経験し、症例報告をまとめました。臨床実習は、自施設において実施することを原則としています。そのことで、特定行為を自部署の医師・看護師に知ってもらい、修了後の活動がスムーズにできることを狙いとしています。

「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」や「循環動態に係る薬剤投与関連」の行為については、症例報告会を開催し、それぞれが経験した症例をみんなで共有し、さらに学びを深めるという試みも実施しました。

2022年2月24日・25日に科目修了試験を実施し、全員が素晴らしい成績で合格しました。

※人工呼吸器の設定の変更演習風景です。



修了式

2022年3月10日特定行為研修管理委員会での認定会議で、研修生全員の研修修了が認定されました。

2022年3月17日修了式を迎えました。

これから実践を積んで活躍することを期待しています。



文責 法人本部 看護企画室 特定行為研修担当 中澤